



TITLE:

保険學說ノ發展(一)

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 保険學說ノ發展(一). 經濟論叢 1915, 1(6): 734-751

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126930>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號六第

卷一第

論說

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(二)

●穀物倉庫論

●貧富問題(三)(完)

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學博士 田島 錦治

雜錄

●大藏省證券ニ就テ尾上學士ニ應フ

●南洋新占領地研究ノ二

●保險學說ノ發展(二)

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本 美越乃

法學士 小島 昌太郎

雜報

●經濟的進化ト人口法則(二)(完)

●最近ノ金融問題(一)

●廣告稅ト廣告官營

●戰爭ト英國ノ貿易

●社會政策學會第九回大會記事

●京都法學會大會記事

講師 米田 庄太郎

法學博士 谷村 一太郎

助教授 神戶 正雄

講師 河田 嗣郎

高田 保馬

保險學說ノ發展(二)

法學士 小島昌太郎

- 一、序論、 二、契約說、 三、損害分擔說、 四、危險分擔說、 五、統一不能說、 六、技術的特徵說、
七、偶發的欲望充足說、 八、經濟的貯蓄說、 九、卑說

一 序 論

此ニ保險學說ト云フモノハ保險ノ總テノ問題ニ關スル學說ト云フ意義ニアラズ保險ノ本質ニ關スル學說ト云フ意義ナリ、經濟學者及法律學者ガ從來保險ノ本質ニ關シテ與ヘタル説明ハ區々ニシテ未タ歸一スル所ナシ、本論文ハ是等ノ諸說ヲ紹介シ之ヲ批評シ而シテ後卑說ヲ述ベ以テ諸賢ノ批評ヲ仰クヲ以テ目的トナセドモ之ヲナスニ先チ些カ諸說ノ歸一セザル原因ヲ尋ネント欲ス保險ノ本質ニ關スル經濟學說ノ歸一セザル原因ハ多々アルベシト雖モ其主ナルモノハ二ナリ其一ハ時代ニヨリ保險ナル觀念ノ變遷擴張シタルコト是ナリ而シテ此ノ保險觀念ノ變遷擴張ハ保險事業ノ發達推移ニ原因スルヤ言フ迄モナシ

抑モ保險ガ獨立ノ商業トナリシハ第十四世紀ノ頃伊太利諸市特ニふろれんすベにす等ニ行ハレシ海上保險ニ初マルコトハ諸學者ノ均シク認ムル所ナリ、其後火災保險生命保險等ガ漸ク獨立ノ業務トナリタリト雖モ之等ハ世人ニ重要視サルノ程度遙カニ海上保險ニ及バズ、故ニ保險ナル觀念ハ第十九世紀以前ニ於テハ專ラ海上保險ニ限ラレシナリ、換言スレバ保險ト言ヘバ海上保險ヲ指シタルモノナリキ、然ルニ第十九世紀末ヨリ二十世紀ノ初頭ニ及ビ生命保險ガ著ク隆興スルヤ生命保險ニ關スル專門的研究大ニ進歩シタルノミナラズ、此ノ保險ハ凡テノ職業凡テノ階級ニ

關係ヲ有シ且ツ保險業者ノ廣告勸誘最モ普及シタルガ故ニ世人ハ保險ナル語ニヨリテ直チニ生命保險ヲ理解シタリ、更ニ最近ニ至リテハ一般經濟狀態ノ進歩シタル結果保險ノ利用モ益盛トナリ、海上生命火災等ノ保險ガ社會ニ於テ重要視セララルノ程度甲乙ナキニ至レルノミナラズ、此外舊存新生ノ多種ノ保險例ヘバ陸運、家畜、盜難、災害、責任、硝子、等ノ保險モ亦發達シテ、之等ハ皆保險ナル一觀念ノ中ニ包含セラルルコトナレリ、殊ニ輓近強制的勞働保險ノ實施ハ又保險ノ觀念ニ影響ヲ及サザルヲ得ズ

斯クノ如ク時代ニヨリ經濟上重要視セラレシ保險ノ種類ヲ異ニセシノミナラズ新種ノ保險ガ續續顯ハレタルガ故ニ保險ノ觀念ガ古ニ比シ廣汎トナリシハ怪ムヲ要セズ、然ルニ學者ガ保險ノ觀念ヲ説明スル態度ヲ見ルニ、或ハ前ノ時代ニ適當ナリシ觀念ヲ以テ後ノ時代ニ新ニ生ゼシ保險ヲモ含マシメントスルモノアリ、或ハ後ノ時代ニ生ゼシ保險ハ前ノ時代ノ觀念ニ適當セザルノ故ヲ以テ之ニ保險タル性質ヲ非認セント欲スルモノアリ、又或ハ前代ノ思想ハ現代ノ事物ヲ表明スルニ適セザルガ故ニ新ニ保險ノ觀念ヲ定メ舊來ノ保險ヲ含マシムルト共ニ新ニ生ゼシ保險ニモ及スコトヲ得シメントスルモノアリ、此ニ於テ學者ノ保險觀念ニ關スル説明ニ差異ヲ生ズルナリ。

其第二ノ原因ハ保險ニ關スル經濟學の研究ガ甚ダ幼稚ナルニアリ。

從來保險ノ研究ハ經濟學者ニヨリテ甚ダ閑却セラレ經濟學者ニシテ保險ニ關スル記述ヲナスモノ甚ダ少ク又假令之ヲナスモ保險ノ本質ニ關スル説明ハ甚ダ簡ニ過ギタリ。

抑モ保險ニ關スル研究ノ沿革ヲ見ルニ其研究ハ先ツ保險ノ法律關係ニ初マレリ。而シテ海上保險ガ保險ノ中最早ク發達シタルモノナルガ故ニ保險ノ法律的研究ト言フモ實ハ海上保險ノ法律的研究ナルノミ、故ニ海上保險ニ關スル公私法ハ既ニ十五世紀ノ頃ヨリ存在スルニ係ハラズ其他ノ保險ニ關スル立法ハ多クハ漸ク前世紀ニ於テ備ハリシナリ。

保險事業ガ益隆盛トナルニ從ヒ次デ起リシハ其實務的技術的研究ナリ、殊ニ生命保險ニ於テハ其技術的研究著シキ發達ヲ遂ゲ優ニ一科ノ學ヲナスニ至レリ Actuarial Science ト言フモノ之ナリ、此ノ實務的技術的研究ハ實務家又ハ數學者ノ手ニ成レルモノナルガ故ニ其研究範圍モ亦海上、火災、生命保險等特殊保險ノ範圍外ニ出ズシテ廣ク保險一般ニ亘ルモノニアラズ、故ニ之等ノ著書ニ於ケル保險觀念ノ説明ヲ見ルニ往々保險トハ海上保險ヲ指スモノノ如ク又或ハ生命保險ヲ指スモノノ如ク記述セリ、廣ク總テノ保險ニ亘ル一般的研究ヲナスハ經濟學ノ領域ニ屬スルガ故ニ保險ノ經濟學的研究ノ起ラザル時代ニ其一般の説明ヲ見ルコトヲ得ザリシハ理ノ當然ナリト云ハザルベカラズ、然ルニ獨逸ニ於テハ十九世紀ノ中葉ヨリ經濟學の立脚地ヨリ保險觀念ノ一般の説明ヲ發表スルモノ漸ク表ハレ保險ノ綜合的研究ノ風稍ヤ開ケタリト雖モ未ダ經濟學ノ他ノ方面ニ於ケルガ如ク盛ナラズシテ其研究モ幼稚ノ域ヲ脱セザリキ、殊ニ經濟學者ガ保險ノ綜合的研究ヲナスニ當テハ、從來法學者又ハ實務家ノ手ニナリシ著書ヲ參考セザルヲ得ズ、然ルニ法律の著書ハ保險ノ經濟的性質ヲ説明セズ、實務的著書ハ特殊保險ノ範圍内ニ局限シテ總テノ保險ニ亘ル説明ヲナサズ、即チ例ヘバ海上保險又ハ生命保險ノ著書ハ海上保險又ハ生命保險ニ最モ適切ナル説明ヲナスノミニシテ一般ニ保險ノ何タルヤニ就キテハ言及スル所ナシ又假令之ニ言及スルモノアリテモ廣ク何レノ保險ニモ通ズベキ一般觀念ヲ與フルニアラズシテ只其特殊保險ノ觀念ヲ些カ擴張シテ他種ノ保險ニ及ボシタルニ過ギズ、故ニ保險ノ經濟學の説明トシテ一般觀念ヲ與フルニ當リテハ直ニ之等ノ著書ノ説明ニ據ル能ハザルナリ、然ルニ經濟學者ニシテ此法律家又ハ事務家ノ與ヘタル説明ヲ未ダ其儘採用スルモノアリ、此ニ於テ純經濟學の立場ヨリ之ガ説明ヲ與ヘントスルモノトノ間ニ見解ノ相違ヲ來スハ洵ニ已ムヲ得ザル所ナリ。

斯ノ如ク保險ノ經濟學的研究ハ未ダ幼稚ナル地位ニアリ、而シテ此ノ研究ノ幼稚ナルコトガ保

險ノ一般の觀念ノ説明ニ大ナ 差異ヲ來ス原因ナルガ故ニ保險ノ本質ニ關スル學說ヲ建テント欲セバ先ヅ學說變遷ノ跡ヲ尋不其差異ヲ明ニセザルベカラズ

二 契 約 說

此ニ假ニ名ツケテ契約說ト謂フ所ノモノハ保險ハ一ツノ契約ナリト言フ說ナリ 先ニモ述ベタルガ如ク保險ニ關スル研究ニアリテハ其法律の方面ガ先ヅ發達シタルガ故ニ經濟學者ガ保險ノ解説ヲナスニ當リ法律學者ノ説明ヲ其儘引用シタルモノ少カラズ之レ經濟學の說明ニ於テモ法律的色彩ヲ帶ブル契約說ナルモノノ存在スル所以ナリ

吾人ハ此ニ契約說ノ代表トシテ Masius ノ說ヲ舉ゲン、其定義ニ曰ク

Unter Versicherung versteht man den Vertrag, welchen zwei Parteien schliessen, wodurch die eine eine gewisse, irgendwann welchen Gegenstand treffen könnende Gefahr gegen eine Kaufsumme oder ein versprochenes übernimmt, während im Falle des Eintretens derselben von der anderen Schadenersatz geleistet wird. *

吾人ガ此ノ定義ヲ讀ミテ甚ダ奇異ニ感ズルハ之ニヨレバ危險ヲ引受クルモノ(保險者)ト填補ヲ受クルモノ(被保險者)トガ同一人ニ歸着スルコト之ナリ、世ニカカル奇怪ノ説明アラシキ然レドモ Masius ガ此ノ定義ニ續テナセル保險ノ説明ニハ明ニ保險者ノ地位、被保險者ノ地位トヲ分テラルガ故ニ註)此ノ點ハ單ニ文言上ノ誤謬トシテ強ク深ク咎ムルノ要ナカルベシ、然シナガラ此ノ定義ハ保險トハ一ノ契約ナリト言フガ故ニ實ハ保險契約ノ定義ニシテ保險其ノモノノ定義ニアラス故ニ保險ノ經濟學の說明トシテ採用スルコト能ハズ

更ニ一步ヲ譲リ之ヲ假ニ保險契約ノ定義トシテ見ルモ多クノ缺點ヲ有ス、一例ヲ舉グレバ此ノ定義ニ從ヘバ有償保證契約モ亦保險契約トナルガ如キ之ナリ、然レドモ保險契約ノ定義トシテ如

* Dr. E. A. Masius: Systematische Darstellung des gesamten versicherungswesens, S. 1. (Leipzig 1857.)

何ナルモノガ最モ適當ナルヤヲ定ムルハ法律學上ノ問題ニシテ本論ノ範圍外ナルカ故ニ今ハ之ヲ論ゼズ

(註) Die Versicherungs-Gesellschaften und-Vereine übernehmen gegen gewisse Leistungen an Geld oder Versprechen eine bestimmte Gefahr, von welcher der benannte Gegenstand bedroht werden kann, und ersetzen (vergüten) den Schaden, wenn solcher nicht durch eigene Schuld der Versicherten herbeigeführt worden ist. (1)

斯クノ如ク契約說ハ經濟學的説明トシテ採用スベカラザルモノナリ、而シテ輒近強制保險ノ制度實施セラレタル以上ハ保險ハ契約ナリトハ法律の説明トシテモ最早不可ナリ、法律上ノ觀念ニ於テモ保險ト保險契約トハ明ニ分別セザルベカラズ、然ルニ獨逸ニ於テ一千八百八十三年以來強制労働保險ノ制度實施セラレタルニ係ラズ Lencic が一千八百八十八年公ニシタル經濟的著書ニ於テ此ノ契約說ヲ採用シ(2) 最近 Gephart モ此ノ說ニ據リタリ(3) 其他英米學者ノ多クガ今日尙此ノ保險ハ契約ナリトノ說ヲ把持スルガ如キハ洵ニ其固陋ヲ笑ハズンバアルベカラズ。

三 損害分擔說

法律學者ノ説明ヲ借ラズ純然タル經濟學的の見地ヨリ保險ノ説明ヲ試ミ保險トハ損害ヲ分擔スル經濟制度ナリトノ說ヲ大成シタルモノヲ A. Wagner トナス。

其保險ノ定義ニ曰ク

Versicherung" im wirtschaftlichen Sinne ist diejenige wirtschaftliche Einrichtung, welche die *nachtheiligen Folgen* (zukünftiger) einzelner, für den Betroffenen zufälliger, daher auch im einzelnen Falle ihres Eintretens unvorhergesehener Ereignisse für das Vermögen einer Person dadurch beseitigt oder wenigstens vermindert, dass sie dieselben auf eine Reihe von Fällen verteilt, in denen die gleiche Gefahr droht, aber nicht wirklich eintritt. (4)

此ノ定義ハ大體ニ於テ今日尙多クノ學者ニヨリテ採用セラルル所ナリ、然シナガラ此ノ定義ニ

(1) Masius: a. a. O. S. 1.

(2) O. Lencic: *Kaehismus des Versicherungswesens*, 2. Aufl. Leipzig 1888 S. 5.

(3) W. F. Gephart (h. l.). *Principles of Insurance*. New York 1911. p. 1.

(4) Schönbergs *Handbuch der Politischen Oekonomie*, Tübingen 1898 4. Aufl. 2. Bd. 2. S. 359.

ハニツノ大ナル缺點ヲ含有ス、第一ノ缺點ハ此ノ定義ニ從ヘバ所謂自家保險ナルモノモ亦真正ノ保險トナルコト之ナリ、第二ノ缺點ハ此ノ定義ニ從ヘバ生命保險特ニ生存保險ハ保險ニアラズト言ハザルベカラザルコト之ナリ、以下少シク之ヲ論ゼン

所謂自家保險トハ一ノ經濟主體ニ屬スル多數ノ經濟物體ガ偶然ナル事件ニヨリテ滅失毀損スル場合ニ備ヘンガ爲メニ準備財産ヲ作ルコトヲ言フ。

故ニ斯クノ如クニシテ作成セラレタル財産ハ豫想ノ滅失毀損カ發生スルト否トヲ問ハズ終始其經濟主體ニ屬スルガ故ニ若シ豫想ノ事件ガ發生セザルナラバ此ノ準備財産ハ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ルモノナリ、サレバ單純ナル貯蓄ト毫モ異ル所ナク學問上特ニ之ヲ保險トシテ別異ノ取扱ヲナスベキ理由ナシ、宜ナル哉 Brämer(1) Manes(2) 初メ多數ノ學者ハ概ネ保險ニハ多數人(多數經濟主體)ノ結合ヲ必要ナリトナシ以テ自家保險ハ保險ニアラズトナセリ、然ルニ Wagner ハ自家保險ヲ以テ保險ナリト看做シ故ラニ之ヲ表明センガ爲メニ特ニ其定義ニ於テ多數人ト言ハズシテ多數ノ場合ト言ヒシナリ(註)之レ此ノ定義ノ第一ノ缺點ナリ

註 Diese Definition passt für alle Systeme, Arten und Zweige der Versicherung, auch für die sogenannte Selbstversicherung im Gebiete der Sachversicherungen.....(3)

更ニ Wagner ノ此ノ定義ニ從ヘバ保險ハ總テ損害保險ニシテ損害保險ニアラザル保險ナシト言ハザルベカラズ、彼曰ク

保險ノ對象ハ其種類部門組織ノ如何ヲ問ハズ常ニ一定ノ事件ノ結果トシテ經濟上ノ損害ヲ惹起スユトアルベキ危險ナリ故ニ物保險タルト生命保險タルトヲ分タズ何レノ保險モ皆損害保險ナリト(4)

而シテ彼ハ生命保險ニ於テ老年保險 Altersversicherung(5)ナルモノヲ認メ之ヲ以テ一般ニ收入能力ノ減滅ヲ來スベキ一定ノ高齡ニ到達シタル場合ニ資金又ハ年金ヲ支拂フベキモノナリト説明セ

(1) H. Brämer u. K. Brämer. Das Versicherungswesen. Leipzig 1894. S. 2.

(2) Manes. Versicherungswesen. Leipzig 1913. S. 2.

(3) 前掲 Schönberg's Handbuch d. p. O. S. 359

(4) 同上書 S. 361

(5) 同上書 S. 364

リ總テノ保險ハ皆損害保險ナト言フ彼ノ立場ヨリセバ此ノ老年保險ニ於ケル被保險事件タル一定ノ高齡ノ到達ヲ以テ損害ナリト言ハザルベカラズ
抑モ彼ハ損害ヲ何ト解スルヤ、彼曰ク

人ノ生命モ亦萬物ト等シク事變又ハ災厄ニヨリテ滅失毀損サルベキ無數ノ危險ノ下ニアリ生命ハ其天壽ヲ全クスル以前ニ財ハ其用途ニ從ツテ用ヒ盡クサル以前ニ換言スレバ消費サル以前ニ滅失毀損セラルルコトナシトセズ之レ皆其運命ナリ更ニ人ノ生命モ財モ多少ノ遲速コソアレモ元ノ塵ニ歸ル迄、原素ニ分解サルマデ、消耗セラルルコトヲ免レザルナリ。
此ノ滅失毀損消耗ハ國民經濟上ノ損失ナリト。(一)

由之觀之彼ハ生命(經濟上ヨリ之レヲ換言スレバ收入能力)及ビ財ガ滅失毀損消耗スルコトヲ凡テ皆損失ナリト解シタルナリ、サレバ一定ノ高齡ニ達スルトキハ收入能力滅減スルガ故ニ之ヲ損害ナリトシ從テ老年保險ヲ以テ損害保險トナス亦怪ムヲ要セズ、然レドモ彼ノ如ク一概ニ生命及ビ財ノ滅失毀損及消耗ヲ以テ損失ナリト見做ス見解ハ正當ナリヤ否ヤ、吾人ノ解スル所ニ據レバ滅失毀損消耗ハ形態ニ關スル觀念ナリ損失ハ價値ニ關ヘル觀念ナリ、故ニ滅失毀損消耗ヲ以テ直接ニ損失ナリトスルハ必ズシモ正鵠ヲ得タル見解ニアラス乞フ少シク之ヲ論ゼン。

今之ヲ論ズルニ當リ吾人ハ順序トシテ消費ト損失トノ觀念ノ區別ヲ論ゼザルベカラズ、吾人ノ解スル所ニ據レバ消費トハ人ガ財(外界財、内界財)ニヨリテ其欲望ヲ満足シタル結果其價値ノ減少又ハ滅失スルコトナリ損失トハ人ガ財ニヨリテ欲望ヲ満足セザルニ他ノ原因ニヨリテ其價値ノ減少又ハ滅失スルコトナリ、更ニ他語ヲ以テ言ヘバ人ガ財ノ效用ヲ享受シタル結果其價値ノ滅減スルハ消費ナレドモ人ガ效用ヲ享受セザルニ他ノ原因ニヨリテ其價値ガ滅減スルハ消費ニアラスシテ損失ナリ、例ヘバ等シク木材ノ燒失ト言フコトモ人ガ燃料トシテ之ヲ燒ルバ消費ナリ火災ニ罹リテ燒ケシナラバ損失ナリ。*

斯ノ如ク消費及ビ損失ハ共ニ財ノ價值ノ減減ニ關スル觀念ナリ、而シテ多クノ場合ニ於テ形態的減減アレバ之ニ伴ヒテ價值ノ減減スルヲ常トスレドモ正確ニ言フトキハ價值減減ノ原因タルモノハ形態的減減ニアラズシテ實ハ人ノ認識ノ如何ニアリ、財ノ效用ニ對スル人ノ認識ガ大ナルトキハ價值大ニシテ小ナルトキハ價值小ナリ必ズシモ其物體ノ増減ニ關係セズ、故ニ財ガ形態的ニハ減減シタル場合ニ於テモ價值ハ反テ増加スルコトアリ、例ヘバ古器物骨董品ノ如キ不斷ノ使用ニヨリテ其形態ニハ多少ノ減損アルモ價值ハ反テ増加スルガ如シ、又形態的ニハ殆ド何等ノ變化ナキニ價值ハ減少スルコトアリ、例ヘバ商品ノ流行後レトナルガ如シ、而シテ此ノ價值ノ減減ガ財ノ效用享受ノ結果ナルトキハ消費ニシテ然ラザルトキハ損失ナルコト前述ノ如シ、由是觀之形態ノ減減ト價值ノ減減トヲ混同スルノ不可ナルハ明ナルベク又形態的減減ヲ以テ直チニ損失ナリト看做スノ不當モ自ラ明ナルベシ、然ルニ Wagner ガ減失毀損及ビ消耗ヲ以テ凡テ損失ナリト言ヒシハ常ニ消費ト損失トノ二觀念ヲ混同シタルノミナラズ又消費損失ト言フ經濟的觀念ト減失毀損消耗ト言フ物理的觀念トヲ混同シタルモノト言フベシ。(註)

(註) 財ガ形態的ニハ減減スルモ必ズシモ其價值ヲ減減スルモノニアラザル例證トシテ本文ニハ財ノ使用ノ場合ヲ學ダレドモ此外其最モ著シキハ財ノ生産ナリ蓋シ製造加工等ノ如キ場合ニハ其原料ノトキヨリ必ズ形態的ニハ減少スレドモ其價值ハ増加スレバナリ。

諸君人ハ以上述ブル所ニヨリテ損失ノ觀念ヲ明ニナシ得タリト信ズ、此ニ於テ Wagner ガ老年保險ハ老衰ニヨリテ收入能力ガ減退衰亡シタル場合ニ一定金額ヲ支拂フモノナルガ故ニ損害保險ナリト説明シタルコトノ可否ヲ判定セザルベカラズ、思フニ彼ガ收入能力ノ減退ヲ以テ損失ト見做シタルハ收入能力ハ所謂内外ノ財ナルガ故ニ之レガ減減ヲ以テ直チニ損失ナリト見タルモノナルベシ、然レドモ收入能力ノ減減ハ必ズシモ常ニ損失ニアラズ即チ或場合ニハ損失ナレドモ或

他ノ場合ニハ損失ニアラズ勞働ニヨリテ衣食スルモノガ疾病又ハ負傷ニヨリテ手足ヲ失ヒ其結果收入ヲ減少シ又ハ全失スルハ損失ナリ之ニ反シ他ニ何等ノ原因ナク單ニ老年ニ達シ神身ノ自然ノ衰耗ニヨリテ收入ノ減滅スルハ損失ト見ルコト能ハザルナリ

抑モ收入能力ノ減滅ヲ以テ損失ナリト看做ス所以ノモノハ收入能力其モノノ減滅ガ直チニ其價值ノ減滅ヲ來スヲ以テナリ、人ノ勤勞ハ價值ヲ有シ貨幣ト交換スルコトヲ得ルモノナルガ故ニ勤勞ヲ提供シテ貨幣ヲ取得スルコトヲ得ル能力即チ收入能力モ亦元本の價值ヲ有ス、個々ノ勤勞ノ價值ハ即チ此ノ能力ノ使用價值ナリ收入能力ノ價值ハ恰モ土地ノ賣買價值ノ如ク勤勞ノ價值ハ恰モ土地ノ賃賃價值ノ如シ、收入能力ノ減退ハ此ノ元本の價值ノ減少ヲ來スヲ以テ論者ハ直チニ之ヲ見テ損失ト看做サント欲ス、然レドモ前ニ説明シタルガ如ク價值ノ減滅ハ必ズシモ常ニ損失ニアラズ、價值ヲ荷ヘルモノノ效用ヲ享受セザルニ他ノ原因ニヨリテ其價值ノ減滅スルハ損失ナリ、價值ヲ荷ヘルモノノ效用ヲ享受シタルニヨリテ其價值ノ減滅ハ消費ニシテ損失ニアラズ、土地ガ其用法ニ從ヒ使用セラレタルガ爲メ其肥度ヲ減ジ其結果生産力ヲ減少シタルニ因リテ其價值ガ減少スルハ消費ニシテ損失ニアラズ、然レドモ洪水噴火地震等ニ因リ土地ガ傾覆セラレ其結果生産力ガ減滅シテ價值ノ減滅スルハ損失ナリ、人ノ收入能力ニアリテモ亦同ジ收入能力ノ減退ガ人ノ神身ノ自然ノ老衰ニ基クトキハ消費ナリ、之ニ反シ疾病負傷ニ因リ神身ノ衰弱シタルニ因ルトキハ損失ナリ(消費及損失ト言フ語ハ本來外界ノ有形財ニ限リテ用ヒラルモノナルベシ然レドモ有形財ニ付キテ消費及損失ノ語ニヨリテ言ヒ表ハサルル觀念ヲ無形財タル内外財ニ付キテ言ヒ表ハサント欲スルモ適當ノ語ナキガ故ニ暫ク兩者共ニ此ノ語ヲ用フ、之ハ外界ノ有形財ニ關スル言葉ヲ内外ノ財ニ擴張應用シタルニ過ギズシテ觀念ノ内容ハ同一ナルガ故ニ別ニ差支ナカルベシ)然ルニ Wagner ノ擧ゲタル老年保險ナルモノハ人ガ老衰シテ神身ノ自然ノ衰耗ニ因リ收入能力ノ減退スル場合ニ之ニ代ル元本の財産又ハ年金ヲ給付スルモノナルガ故ニ毫モ損害填補ナ

ルモノナシ故ニ老年保險ヲ以テ損害分擔ノ保險即チ損害保險ナリト言フハ誤ナリ

Wagner、更ニ老年保險ノ外ニ生存保險 *die Versicherung auf den Lebensfall* ナルモノヲ認メ一定年齢ニ達シテ生存セル場合ニハ保險金ノ支拂ヲナスモノナリト説明シタリ* 生存保險ト言ヘバ既ニ老年保險ヲ含ムモノナルニ係ハラズ此ノ二者ヲ分チタルハ其所謂生存保險ナルモノハ老年保險ヲ除キタル他ノ生存保險即チ比較的短期ノ生存保險例ヘバ嫁育保險 *Aussteuerversicherung* ノ如キヲ指スナルベシ、又譬ヘ其意必ズシモ此ノ二者ヲ分ツニアラズトスルモ生存保險ト言ヘバ短期ノ生存保險ヲ含ムコト明ナリ、而シテ彼ハ保險ハ凡テ損害保險ナリトナスガ故ニ此ノ短期生存保險モ亦損害保險ナリトセザルベカラズ、例ヘバ六歳ノ子女ヲ被保險者トナシ之ガ十五歳二十歳若シクハ二十五歳ニ達シ生存スル場合ニハ約定ノ保險金額ノ支拂ヲナス保險ヲ以テ損害保險ナリト言ハザルベカラズ、然レドモ此ノ保險ノ場合ニ於テ如何ナル損害ナル事實ガ發生スルヤ、吾人殆ド之ヲ解スルニ苦シム、或ハ曰ク子女ガ之等ノ年齢ニ達シタルトキハ或ハ専門學校ニ入學シ或ハ婚姻ヲナシ又或ハ事業ニ着手セザルベカラズ、之等ノ場合ニ於テ一時又ハ引續キ數年比較的巨額ノ費用ヲ支出スルノ必要アリ、之レ一家ノ經濟ニトリテ一ノ打撃ナリ之ヲ損失ト見ル豈ニ不可ナラシヤト、然レドモ支出スル費用ノ巨額ナルコト又之レガ一家經濟ニ打撃タルコトハ必ズシモ之ヲ以テ損失トナスベキ標準ニアラズ、殊ニ學資、嫁資、事業資トシテノ支出ノ如キハ明ニ消費ニシテ決シテ損失ニアラズ、故ニ生存保險ハ損害保險ナリト言フコト能ハザルナリ

或ハ生命保險ニ損害填補ノ性質ヲ認メンガ爲メニ貯蓄ノ妨害ト云フコトヲ説クモノアリ、即チ一定金額ヲ蓄積セント欲スル場合ニ普通ノ貯蓄ニ依レハ一定年月ノ經過ヲ俟タザルベカラズ、然ルニ其年月ノ經過以前ニ死亡其他ノ事件ニ因リテ此ノ貯蓄ハ妨害セラル、若シモ此ノ場合ニ其目的額ヲ保險金額トシテ生命保險契約ヲ締結センカスル事件ガ何時發生スルモ直チニ處要ノ金額ヲ

獲得スルコトヲ得ルナリ、故ニ生命保險ハ此ノ點ニ於テ貯蓄ノ妨害セラレタル損害ヲ填補スルモノナリト言フ、然レトモ貯蓄ノ妨害ヲ以テ損害ナリトナスハ誤ナリ

抑モ損害ニハ受ケタル損失ト失ヒタル利益トヲ含ム、受ケタル損失トハ吾人ガ前ニ説明シタルガ如ク人ガ財ノ效用ヲ享受セザルニ他ノ原因ニヨリテ其價值ガ減減スルコトニシテ積極的ノ損失ノコトナリ、之レニ對シテ消極的ノ損失ナルモノアリ、消極的損失トハ事物自然ノ成行ニ於テ當ニ或人ノ支配ニ歸スベカリシ財ガ其人ノ意思ニ反シテ終ニ歸セザルニ至リシコトヲ云フ、即チ所謂失ヒタル利益ナルモノ之レナリ、例 九百圓ニテ買入レタル商品ヲ一千圓ニテ賣却スル契約ヲ締結シタルニ其引渡ヲナス以前ニ火災又ハ沈没ニ因リテ契約ヲ履行スルコト能ハザルニ至リタルトキハ商品ノ燒失又ハ沈没ハ積極的ノ損失ナリ、一百圓ノ利得ノ喪失ハ消極的ノ損失ナリ、此ノ積極的損失及ヒ消極的損失ヲ合セテ廣義ニ之ヲ損害ト云フ

貯蓄ノ妨害ヲ以テ損害ナリトナスモノハ即チ之ヲ以テ消極的損失トナスナリ、蓋シ貯蓄ノ妨害ハ到底之ヲ積極的損失ナリト云フコト能ハザルハ明ナレバナリ、然レトモ貯蓄ノ妨害ハ消極的損失ニモアラズ、何トナレバ一定額ノ貯蓄ノ成功ト云フコトガ事物自然ノ成行ニ於テ當然成立スル結果ナリトハ一般的事情ノ下ニ於テ社會見解上認ムルコト能ハザレバナリ、即チ或人ガ一定年齢迄生存スルトシテモ其間必ズ或一定額ヲ貯蓄シ得ベシトハ一般ニ認ムルコト能ハザレバナリ、故ニ貯蓄ノ妨害ト云フコトニヨリテモ生命保險ヲ以テ損害保險ナリト説明スルコト能ハズ。

以上ニ於テ吾人ハ損害分擔說ノ代表トシテ *Wagener* ノ說ヲ紹介シ且ツ彼ガ示セシ保險ノ種類ノ中ニ於テモ尙損害分擔ノ觀念ヲ以テシテハ説明シ得ザルモノアルコトヲ論ジタリ、此ノ一事ニ由リテモ損害分擔ナルコトハ保險ノ一般普遍的性質ニアラザルコト明ナレドモ更ニ右ニ掲ゲタル各種ノ生存保險ノ外損害分擔說ニヨリテハ説明シ得ザル保險アルコトヲ示シ以テ此ノ說ノ不可ナル

所以ヲ更ニ明ニセン、今日歐米下級民間ニ行ハルル埋葬費保險 Begräbniskostenversicherung 又ハ墓碑保險 Grabsteinerhaltungsversicherung ノ如キハ一種ノ小口終身生命保險ナレドモ被保險者ノ死亡ニヨリテ生ズル經濟的損害ヲ填補スルヲ目的トナスモノニアラズ、反テ死亡ニヨリテ必要トナリタル費用ヲ給スルコトヲ目的トナスモノナリ、此ノ費用ノ支出ハ消費ニシテ損害ニアラズ。又一般ノ死亡保險ノ多クノ場合ニ於テモ之ト同一ノ説明ヲナスコトヲ得ルモノナレドモ餘リ煩ハシキガ故ニ今ハ之ヲ省ク。家畜保險ニハ一般家畜保險ト家畜傳染病保險トアリ、其一般家畜保險ニ於テハ畜ニ家畜ノ疾病傷害ニ因ル早斃ニ對シテ其損害填補ノ爲メニ保險金ヲ支拂フノ外更ニ家畜カ充分ニ天職ヲ盡シ年老イテ勞働ニ耐エザルニ至リテ後老死シタル場合ニモ保險金ヲ支拂フ。此ノ後ノ場合ニハ家畜ノ所有者ハ家畜ヲ消費シ盡シタルモノニシテ之ヲ損失シタルモノニアラズ、故ニ此ノ場合ノ保險ハ損害保險ト言フコトヲ得ズ、之ニ因リテ損害分擔ノ觀念ハ畜ニ生命保險ニ於テ採用シ難キ場合アルノミナラズ又財産保險ノ範圍ニ於テモ不都合ヲ生ズルコトアルヲ知ルヲ得ベシ、故ニ損害分擔說ハ一般の保險學說トシテハ採用スルコトヲ得ズ。

損害分擔說ハ多數ノ學者ニヨリテ主張セラレ殊ニ英米ノ學者ハ今日ト雖モ殆ド總テ此ノ說ヲトル例ヘン Zartman, (2) Campbell, (3) Hoffman (4) ノ如キ皆然リ、斯クノ如ク損害分擔說ハ最モ廣ク行ハルト雖モ此ノ說ノ主張者ニシテ自ら其不完全ナルコトヲ認メタルモノモ之ナキニアラズ、例ヘバ H.Brämer 及 K.Brämer ノ如シ、此ノ二人ハ其共著 Das Versicherungswesen ニ於テ述ベテ曰ク。

保險學ニ於ケル損害ナル觀念ハ普通ノ用法ヨリハ幾分廣義ニ用ヒラルナリ、例ヘバ年金拂又ハ一時金拂生存在保險ノ場合ニ於テハ何等損害の損害ナルモノアリト言ヒ得ザルニ拘ハラズ保險學ニ於テハ損害アリト認メラル、故ニ吾人ノ先ニ掲ゲタル定義ハ此ノ廣義ニ於テ損害ナル文字ヲ用ヒタルガ故ニ一般普通ノ意義ニ於テ之ヲ解スルトキハ定義ハ反テ狹義ニ理解セラルル虞アリ

- (1) 津野博士家畜保險論參照
- (2) Zartman, Yale Reading in Insurance (Fire) p. 42.
- (3) Campbell, Insurance and Crime p. 1.
- (4) Hoffman, Insurance Science & Economics, p. 6.

リ然レドモ保險ノ定義ヲ之ヨリモ擴ムルトキハ反テ實際ノ保險事業ノ範圍ヲ不明ナラシメテ定義ノ目的ヲ達セズ*

彼等ノ言ノ如ク損害ノ觀念ヲ以テスルニアラザレバ到底保險ナルモノヲ完全ニ説明シ得ザルナ
ラバ即チ已ム、然レドモ保險ナルモノヲ説明スルニ保險學ニ於テノミ通用スベキ特別廣汎ノ意義
ヲ有スル損害ナル觀念ヲ用フルハ説明ニシテ實ハ説明ニアラザル結果トナル、何トナレバ苟モ説
明トシテ損害ナル觀念ヲ用ヒントスルニハ之ガ經濟學ニ於テ解釋セルラルト同一ノ意義ニ於テ用
ヒザルベカラザレバナリ

右ニ論ジタルガ如ク損害分擔ノ觀念ヲ以テシテハ總テノ保險ヲ一貫シテ説明スルコト能ハザル
ニ係ハラズ *W. Schöberl* ノ如キ偉大ナル經濟學者ヲ初メ其他多クノ學者ニヨリテ此ノ説ガ採用セラレ
タルニ付キテハ吾人密ニ一ノ因襲の原因ノアリテ然ルニアラズヤト思フ、即チ保險ニ付キテ其數
理の方面ノ研究ハ生命保險ニ於テ最モ發達ヲナシタレドモ其法律の并ビニ商業の方面ノ研究ハ財
產保險就中海上保險ニ於テ發達シタルガ故ニ保險ノ一般の研究ニ於テ其經濟的性質ノ説明ニ關シ
テハ主トシテ海上保險ノ理論ヲ應用シタリ、而シテ海上保險ニ於テハ損害分擔ナル性質顯著ナル
ヲ以テ其理論モ多クハ之ニ關スルモノナリ此ノ海上保險ニ關シテ作ラレタル理論ノ多クガ其僞保
險ノ一般的研究ニモ用ヒラレタル結果保險ノ損害分擔的性質ガ高調セラレタルニ反シ他種ノ保險
ノ性質ノ研究ガ閑却セラレ以テ保險ハ凡テ損害ヲ分擔スルモノナリトノ學說ヲ生ムニ至リシモノ
ナルベシ

損害ノ分擔ト言フコトハ被保險者全體ヲ一團トシテ見タル言ナリ之ヲ一個ノ保險者ノ立場ヨリ
見レバ損害ノ填補ナリ之ヲ一個ノ被保險者ノ立場ヨリ見レバ損害ノ轉嫁ナリ、吾人ガ損害分擔説
ト言フモノニハ保險ハ損害ヲ填補スルモノナリト言フ學說及ビ保險ハ損害ヲ轉嫁スルモノナリト
言フ學說ヲ合セ含ム、蓋シ保險ニ就キテハ損害ノ分擔、填補、轉嫁ト言フコトハ畢竟同一ノ事實

ヲ異ナル觀點ヨリ立言シタルニ過ギザレバナリ、或ハ此ノ三者ヲ別異ノモノナリト理解シテ説明ヲ試ミタルモノナキニアラズ然レドモ斯ノ如キハ事物ノ真相ヲ洞見セザルノ謬想ト言フベシ

四 危險分擔說

損害分擔說ヨリ出デタルモノニ危險分擔說又ハ危險轉嫁說ト云フモノアリ、保險ハ經濟上ノ危險ヲ多數人ニ分擔又ハ轉嫁スルモノナリト云フ說ナリ、保險ニ於テ用キラルル危險ナル語ハ諸種ノ意義アリ(一)或ハ損害ト同一ノ意義ニ用キラレ(二)或ハ損害ヲ惹起ス事件ソノモノ(三)又ハ身體生命ニ危害ヲ與フル事件ソノモノ(四)或ハ斯ル事件發生ノ虞(五)又ハ發生ノ蓋然程度ト云フ意義ヲ表ハスニ用キラレ(六)又或ハ被保險人又ハ被保險物件ソノモノヲ表ハスニ用キラレ(七)更ニ或ハ一ノ保險契約(任意保險)又ハ一ノ保險關係(強制保險)ニ於テ保險者ノ收受スル保險料ノ額ト支出スル保險金トノ差額ト云フ意義ニ用キラルル等場合ニヨリテ一様ナラズ、實ニ一種ノ迷語ト云フベシ、而シテ危險分擔說又ハ危險轉嫁說ト云フ場合ハ經濟上ノ危險即チ損害發生ノ虞ト云フ意義ニ用キラルルナリ。

人ノ經濟的生活ニ於テハ火災沈沒暴風盜難負傷疾病等ニ因リ財産上ニ損害ヲ被ルベキ危險甚タ多シ、然レトモ萬人ガ盡ク其損害ヲ被ルモノニアラズ事實終局ニ於テ損害ヲ被ルモノハ其中ノ少數者ナリ或ハ或種ノ損害ハ早晚必ズ之ヲ受クベキモノナリト雖モ之ヲ受クルニ遲速アリテ若シ一定ノ期間ヲ限リテ其中ニ就テ見ルトキハ事實損害ヲ被ルモノハ猶少數者ニ限ラル、此ニ於テ同種ノ原因ニヨリテ損害ヲ被ルベキ虞アル者換言スレバ同種ノ危險ニ晒ラサルモノ多數相集リ此ノ一團中ニ發生スベキ損害ヲ事實之ヲ受ケタル個人ノミニ負擔セシメズ之ヲ受ケタルモノモ又受ケタルモノモ相共ニ之ヲ分擔スルノ制度ヲ建ツルトキハ事實損害ヲ受ケタルモノハ之ヲ輕減スルコ

トヲ得ベク又結局損害ヲ受ケサルモノ又ハ未タ之ヲ受ケザルモノモ、損害ヲ被ルコトアルベシト云フ危險ヲ輕減スルガ故ニ各利益アリ、此ノ制度ヲ保險ト云フ、故ニ保險ハ各人ノ有スル危險ヲ集團ノ上ニ分割負擔セシムルコトニヨリテ各個人ノ危險ヲ著シク低下スルモノナリ、(二)ト云フモノ是レ即チ危險分擔說ノ要旨ナリ而シテ此ノ制度ニヨルトキハ一人ノ有スル危險ハ著シク低下シテ只保險料ノ金額ニ限ラレ保險料額ダケヲ支出セバ如何ナル損害ガ發生スルモ其團體又ハ保險者ノ損害トナリテ其被害者タル個人ノ損害トナルコトナキガ故ニ既ニ危險ヨリ免脱シタルト異ルコトナシ即チ危險ハ他人ニ轉嫁セラレタルナリト云フ點ヨリ此ノ說ハ又危險轉嫁說ト稱セラル、英米ノ保險學者ハ概ネ此ノ說ヲ尊奉ス、今一例トシテ Willett ノ保險ノ定義ヲ左ニ掲ク

We should define insurance, then, as that social device for making accumulations to meet uncertain losses of capital which is carried out through the *transfer of the risks of many individuals to one person or to a group of persons.*(2)

然レトモ前ニ詳細ニ論シタルガ如ク保險ハ必ズシモ皆損害ノ分擔又ハ填補ヲナスモノニアラズシテ損害ナルコトトハ全ク無關係ナル保險モアルガ故ニ此損害發生ノ虞即チ危險ト云フコトヲ理論ノ根據トシタル危險分擔說モ一般統一的保險學說トシテ採用スルコトヲ得ザルナリ、要スルニ損害分擔說又ハ危險分擔說ハ保險ノ一種別ナル損害保險ニ於テノミ眞ナリ。

但シ此ニ注意スベキコトハ危險ナル語ハ前掲諸種ノ意義ノ中特ニ保險者ノ方ヨリ見タル技術上ノ術語トシテ一ノ保險契約(任意保險)又ハ一ノ保險關係(強制保險)ニ於テ保險者ノ收受スル保險料ノ額ト支出スル保險金トノ差額ナル意義ニ用ヤラルコトアルコト是ナリ即チ此ノ場合ニ於テハ危險ナル語ハ全ク保險技術上ノ術語ニシテ普通ノ意義トハ全ク別異ナルモノナリ、故ニ此技術上ノ意義ニ於テ危險ナル語ヲ用フルトキハ保險トハ多數人トノ關係ニ於テ危險ヲ可成の皆無ッラシムル經濟制度ナリト云ヒ得ザルニアラズ然レトモ之ハ全ク技術的ノ説明ニシテ經濟學的ノ説明

(1) Philippovich, Grundriss der Politischen Oekonomie, Bd. I, 8. rev. Aufl. S. 346.

(2) Willett. The Economic Theory of Risk and Insurance. p. 109.

ニアラズ又固ヨリ危險分擔説又ハ危險轉嫁説トハ無關係ノモノナリ。

五 統一不能説

法律學者ノ間ニハ生命保險ガ本質上保險ナリヤ否ヤニ就テハ今尙論爭ノ存スル所ナリ(一) 今保險ノ經濟上ノ本質ヲ究ムル爲メ參考トシテ是等ノ諸論ヲ一瞥セン。

生命保險ハ本質上保險ナリトナス積極論者ノ論據ハ先ニ述ベタル經濟學説ト同ジク從來主トシテ生命保險ハ人ノ生死ニ因リテ生ズル損害ヲ填補スルモノナリトノ點ニ存シタリ、消極論者ガ生命保險ノ性質ニ關スル説明ハ區々タリ、今試ミニ消極論者ガ生命保險契約ニ對シテ與ヘタル説明ヲ簡略ニ紹介スレバ凡ソ左ノ如シ

(イ) 生命保險契約ニ於テハ約定ノ保險金ヲ得ルガ爲メニ或モノハ長期ノ掛金ヲナシ或モノハ短期ノ掛金ヲナスノ差アルガ故ニ射倖的性質アリ而シテ此契約ハ借入金ニ複利ヲ附シテ返還スルモノナルガ故ニ一ノ消費貸借ニシテ即チ射倖的消費貸借ナリ(Engel)

(ロ) 保險料ヲ支拂ヒテ生命保險ヲ買入ル賣買ナリ(一八六六年ニ於テハ英訴訟院判決)此ノ説ハ古クハ寺院法ガ海上冒險貸借ヲ禁止シタル中世時代ニゼのあノ法律家ガ一般ニ採用シタルモノナリト言フ

(ハ) 貯蓄ト保險トノ兩目的ヲ兼ネタル資金拂込契約ナリ即チ生命保險料ナルモノニハ貯蓄掛金ノ外ニ短期生存ノ場合豫定ノ貯蓄額ニ達セザル損害ヲ填補スル爲メノ保險料ヲモ含ムモノナリ(Mais, Reuling等)

(ニ) 保險會社ガ資金ノ管理公示保全ニ就キテ制限ヲ受タル純然タル貯蓄契約ナリ(Hirchs, Laband)

(ホ) 右何レニモ屬セズ又保險契約ニモアラザル一種特別ノ契約ナリ(Sobbe, König)

右ニ掲ゲタル所ニ據リテ明ナルガ如ク生命保險ガ保險ナリヤ否ヤト言フ問題ニ對スル法律學者ノ積極論モ消極論モ共ニ其根本ニハ保險ハ損害保險ニ限ルトノ見解ヲ懷クモノニシテ保險ニ對スル正當ナル見解ニアラズト雖モ亦以テ生命保險ハ損害填補ノ理論ヲ以テハ完全ニ説明シ得ザルモ

(1) 毛博士、保險法講義五頁志田博士、日本商法論二編商行為九版二三七頁及青木博士商行為論三版四五八頁、四六六頁參照
(2) Otto Hagn, Lebensversicherungsvertr. g (Versicherungs-Lexikon S.800)

ノナルコトヲ示スニ足レリ

諸テ生命保險ハ到底保險トシテ説明シ得ザルモノナラバ之ヲ保險ニアラズト言フノ外ナシト雖モ實際經濟界ニ於テハ損害保險ト共ニ、等シク保險ト認メラレ且ツ此二者ハ共ニ保險ナル名詞ニヨリテ表示セラレ其事業ノ組織方法、契約ノ要素、當事者ノ目的ニ於テモ共通ノ點少カラズ、然ルニ拘ハラズ同一ノ理論ニヨリテ此ノ二者ヲ共ニ眞止ノ保險トシテ説明シ得ザルハ學問上甚ダ遺憾ナル事柄ニアラズヤ、此ニ於テ此ノ二者ヲ合セ説明セントスル企ハ法律學者ニヨリテモ亦屢試ミラレタリト雖モ未ダ何人ヲモ満足セシムベキ學說發見セラレズ、殊ニ諸國ノ法律ハ多クハ損害保險契約又ハ物保險契約ト生命保險契約又ハ人保險契約トヲ分チ規定シ二者ヲ合セテ保險契約ナルモノノ定義の規定ヲナスヲ避タケルガ故ニ法律學者ハ成法ノ説明上益保險契約ヲ唯一ノ理論ニヨリテ説明スルコト困難ナル地位ニ陥リ Ehrenberg ノ如キハ保險契約ヲ統一ニ説明スルハ不可能ナリトノ見地ヨリニ中擇一の說明法ヲ採用シタリ、曰ク

保險契約ヲ統一ニ定義スルコトハ危險、損害、利益、經濟的損失等ノ觀念ヲ以テスルモ不可能ナリ何トナレバ之レニヨレバ人保險ガ除外サルレバナリ、又單ニ保險者ノ給付ノ不確定又ハ給付ノ懸ル事件ノ不確定ト言フコトヲ以テスルモ説明スルコトヲ得ズ何トナレバ之レニヨレバ賭博保險(保險ノ方法ヲ利用スル賭博)モ損害保險ノ範圍ニ入り來レバナリ、此ニ於テ二中擇一の說明ヲトラヤルベカラズト

一 中擇一の說明 Alternativ Theorie トハ保險契約トハ損害ヲ填補シ又ハ一定金額ノ支拂ヲナス契約ナリト言フモノナリ Ehrenberg ノ保險契約ノ定義ニ曰ク

Ein selbstiger Vertrag, durch welche sich die eine Partei gegen Unglück verpflichtet, im Falle des Eintritts eines im Vertrage bestimmten überhaupt oder der Zeit oder der Wirkung nach ungewissen Ereignisses entweder den dadurch verursachten Schaden zu ersetzen oder eine vereinbarte Summe oder Rente zu zahlen, ist im Sinne dieses Gesetzes ein Versicherungsvertrag, wenn jene Partei derartige Verträge planmässig in grosser Zahl abschliesst *

(1) Manes. Versicherungslexikon. Tübingen. 1907 S. 211.

(2) 同上書 1909. S. 213.

法律ノ解釋上保險契約ノ定義トシテハ Ethenberg ノ如ク二中擇一の說明ヲトル亦已ムヲ得ザルモノアルベシ、我商法ノ解釋トシテモ保險契約ノ定義ハ正ニ此ノ外ニ出ツルヲ得ザルベシ(2)然レドモ保險ノ說明特ニ其經濟學的の説明トシテハ斯ル二途ニ亘ル説明ニ満足シテ統一の說明ヲ避クルコトヲ得ズ。

六 技術的特徵說

凡テノ保險ニ共通ナル點ヲ其經濟的性質ニ求メントスル企ノ成功シ難キヲ見ルヤ Vivante ハ寧ロ之ヲ保險實行ノ手續即チ保險技術ノ上ニ求メタリ、彼ニ據レバ國民經濟上ノ觀點ヨリスルモ將タ法律上ノ觀點ヨリスルモ大經營ノ下ニ於テ統計的基礎ニヨリ蓋然率論ノ助ケニヨリテ保險料ヲ算出スルコトガ保險ノ特質ニシテ斯クノ如クニシテ算出セラレタル「保險料ト危險トノ價值ノ均等」ト言フコトガ保險ト他ノモノトヲ分ツ標識ナリ、保險契約者ガ此契約ニヨリテ損害填補ヲ受ケントスル目的ヲ有シタルヤ否ヤハ問フ所ニアラズ、故ニ生命保險モ明ニ一ノ保險ナリト言フニアリ(3)此ノ說ニ對スル Hupka ノ批評ノ要點ハ次ノ如シ

「先ツ保險タルニハ大經營ヲ必要トスト言ハバ彼ノ個人保險業者ノ營ム海上保險ノ如キハ保險ニアラズト言ハザルベカラズ、次ニ統計的基礎ヲ必要トスト言ハバ新ラシク試ミラレタル保險ニシテ未ダ事件ノ統計備ハラザル間ハ保險ニアラズ 言ハザルベカラズ、又保險ニアリテハ大經營ノ下ニ蓋然率論ノ算法ニヨリテ保險料ガ算出セラレ「保險料ト危險トノ價值ノ均等」ナルモノアリ、之レ保險ノ唯一ノ標識ナリト云ハバ彼ノ富識ノ經營ニアリテモ偶然(保險ニアリテハ危險)ト掛金トノ價值ノ均等ヲ計ル爲メニ蓋然率論ヲ用フルニアラズヤ、然ラバ此ノ點ニ於テハ保險ト富識トキ區分スルコト能ハサルナリ(3)」

Vivante ノ說ハ保險ノ技術的性質ノ說明スルニ於テ優レタリ、故ニ之ニヨリテ保險ト保證ヲ明確ニ區別スルコトヲ得、然レドモ彼ハ此ノ技術的性質ニ餘リニ重ヲ置キ過キタルガ故ニ Hupka ノ批難ヲ招キタル洵ニ已ヲ得ザルナリ。

- (1) 松本燕治博士、法險法、(大正四年) 一九頁二〇頁參照
- (2) Goldschmidts Zeitschrift für das gesammte Handelsrecht und Konkulsrecht 1910. S. 551. ff.
- (3) 同書 S. 553 f. 及 556 f.